



暮らしから考える

HOUSING未来予想

●青森大学名誉教授・エッセイスト・ジャーナリスト
見城美枝子

<神無月の教訓>

孫との会話や五輪出場を決めたバスケのニュースを観て若い頃を思い出した。大学受験を控えバスケットボール部を引退した頃。就職でJALを受験しようと頑張っていたけど、アナウンサーになった。就職後もいろいろとあったけれど、全ては自分の行動に起因している。人生は決められない。でも、やろうとする意思を持てば道は開ける。そう思う秋の夜長。

Special Report

市民まちづくりの現在

—まちづくりの担い手としての市民

市民まちづくりは、地域の資源を活用して、地域の課題を解決したり、地域の価値を向上させたりするまちづくりを、そこで生活する市民が主体的に行っていく活動。

特集レポートでは、先駆的な事例の一つと2000年代以降に活動がスタートした魅力的な事例二つを取り上げ、これからのまちづくりのあり方として期待される市民まちづくりの特徴や可能性について考える。

まちづくりは、本来、自由で多様な地域の人たちが中心となって進めていくことが肝要。高度な専門性がなくても、多くの人々が気軽に参加できる活動のしかたが求められる。こうした活動は、地域のコミュニティを醸成しながら、地域を守り、未来につないでいきたいという思いを生み出していく。

■ヘドロの堆積した堀の保存・再生

1970年代の滋賀県近江八幡市の八幡堀の保存・再生の活動。400年にわたってまちの発展を支えてきたにもかかわらず、時代の変化のなかで埋め立てられることになった八幡堀を守った。その後活動はさまざまな形で引き継がれ、現在、近江八幡では市民による多くの活動が行われている。

■空き店舗を活用した子どもの遊び場・居場所づくり

福岡市の空き店舗を活用した子どもの遊び場・居場所づくり。大学の研究室の分室として開設したスペースが、いつの間にか子どもの遊び場に。放課後の2時間ほど、ほぼ毎日オープン。大学生がスタッフとして運営を行い、地域の人や場所をつないでいく、子どもたちが主役のまちづくり。

■古くて新しい住まいのあり方の実践

東京都豊島区の木造賃貸アパートを活用した新たな住まいのあり方の実践。遊休化したアパートや空き家を単体で改修して必要な機能を付加することが難しいことも多い。ほかの建物とネットワークを図ることによって、必要な機能や新しい機能を外付けし、物件の価値を向上させる試み。

Plus1 つながり・支え合いのある地域共生社会

日本の人口は2008年をピークに減少に転じ2011年以降、12年連続で減少が続いており、減少幅も11年連続で拡大。そうした中で起きている世帯縮小化・単身世帯の増加・過疎化などにより、人と人とのつながりが希薄になっているが、つながり・支え合いのある地域共生社会について調査結果をみていく。

Close up 地方へ新たな人の流れ(地方移住)

コロナ禍を経て新たな人の流れも広まりつつあるが、地方移住への関心やニーズは高い一方で、仕事や収入がハードルとなっている現状もみえてきた。その解決として仕事の仕方の多様化や企業側の動き、地方自治体の協力体制の拡大が課題となってくる。

変わる町・未来に続く町 No.1 幸福度NO.1の街「埼玉県比企郡鳩山町」

埼玉県のほぼ真ん中にある鳩山町。「街の幸福度ランキング」で全国・首都圏で一位になるなど、住民満足度の高い街として注目を集めている。そんな鳩山町の超高齢化の町から生涯活躍の町への取り組みを紐解いていく。

都市を考える インフラ都市論 VOL.70 InfrA CITY どうする家康! —江戸で米が作れない!— 特定非営利活動法人 日本水フォーラム 代表理事 竹村 公太郎

家康が幕府を開いた江戸ではまったく米を作ることができなかった。そこでまず取り組んだのが利根川を銚子に向ける工事であった。利根川が繰り返す洪水対策や大規模な農地開発などを古地図なども使いながら検証する。

首都圏

2023年8月 マンション市場動向

近畿圏

新規供給戸数	1,469戸	(前年同月比) 26.4% ↗
初月販売率	68.6%	(前年同月比) 6.6% 引
平均価格	7,195万円	(前月比) ▲27.6% ↗
分譲㎡単価 [3.3㎡単価]	1,149円 [3,799円]	(前月比) ▲20.7% ↗

新規供給戸数	878戸	(前年同月比) ▲17.1% ↗
初月販売率	78.2%	(前年同月比) 1.2% 引
平均価格	4,345万円	(前月比) ▲16.2% ↗
分譲㎡単価 [3.3㎡単価]	740円 [2,447円]	(前月比) ▲8.3% ↗